

国会議員
議

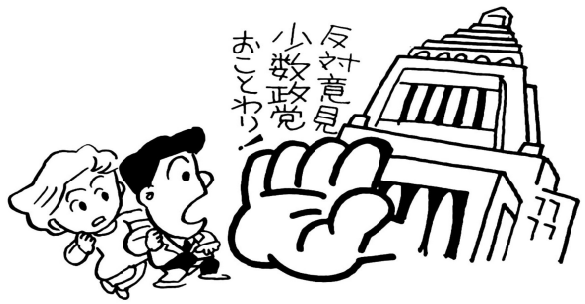
比例定数削減ストップを!

—削られるのは国民の声です—

多様な国民の声を国会に反映させるための議員数は必要

比例定数削減に賛成する政党は、「ムダの削減のため、議員自身が身を削る」といいます。しかし実際に削られるのは国民の声です。

国際的に見ても日本の議員数は少なく、多様な意見を反映するためには、議員をこれ以上減らすべきではありません。「身を削る」というなら、毎年320億円にものぼる憲法違反の政党助成金こそ直ちに削減すべきです。



国会に国民の声が届かない

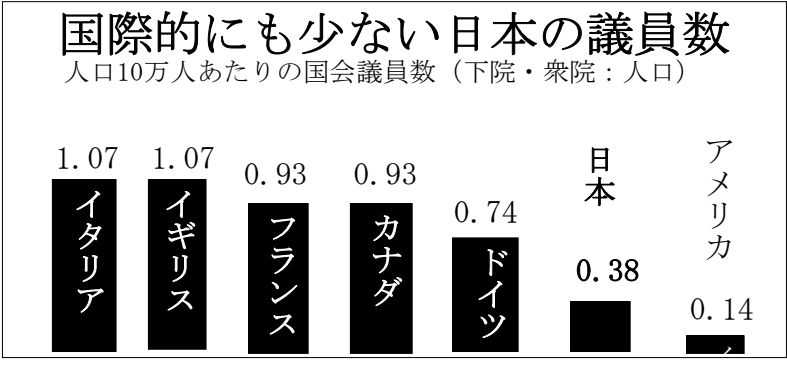
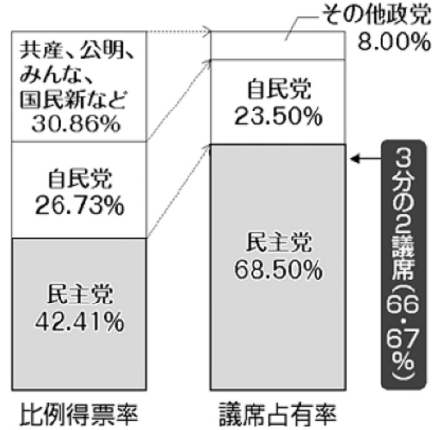
比例定数が削減されると中小政党が排除されます。それは消費税増税反対や改憲反対などの多様な国民の声が国会から締め出される事です。政府・民主党が提案した法案が、参院で否決されても、衆院で3分の2以上の再可決で強行できるなど、一党独裁にもつながりかねません。議制民主主義と国会の役割をゆがめる危険なものであり、絶対許してはなりません。

民主党は4割の得票で7割の議席

比例代表選挙は、得票数に応じて政党の議席が決まるため、民意を議席数に正確に反映させることが出来る制度です。政府・民主党は衆議院で現在180人の比例定数議席を80削減しようとしています。もしそうなったら、昨年の総選挙を例に取ると、民主党は42%の得票で69%もの議席、つまり単独で3分の2以上の議席を独占できる事になります。

菅首相は8月の予算委員会で国会議員の定数削減について、衆議院で比例定数を80削減、参議院で40の定数削減をするとして、「年内に実行できるテンポです」と答弁。菅首相は、行政府費のムダの削減のために「国会議員が自ら身を切ることも必要だ」と主張していますが、真の狙いは経費削減ではなく、今以上に、消費税増税反対や憲法改悪反対などの国民の多様な声を国会に届ける制度をこわす事にあります。

比例定数80削減で議席の占有率は…
(2009年総選挙結果で試算)



議員定数はIPU (列国議会同盟) 2009年報告書から。人口は08年で計算

普天間基地は

無条件撤去 返還こそ解決の道



(写真は、宜野湾市ホームページ)

世界一危険な普天間基地

太平洋戦争で占領した米軍が住民を強制収容し強奪してつくりました。「世界一危険な基地」と言われるのは、人口9万人の宜野湾市のど真ん中にあり、52機のヘリや軍用機が常駐し、市民の頭上を飛び回っているからです。騒音は年間で2～3万件、会話は中断、小学校では授業が中断します。本土復帰後の墜落事故は15件、米兵47人が死亡。市民は毎日、いのちが脅かされています。



みなさん、今重要なことは、日本政府が日本国民のすべてが平和と安全に暮らせるようにすることではないでしょうか。沖縄には米軍基地の75%が集中し、続発する凶悪な米兵犯罪や爆音等の基地被害が沖縄県民を脅かし続けています。

管首相は、「世界一危険な基地」と言われている普天間基地の即時無条件閉鎖と、「新基地建設は認められない」との強い姿勢でアメリカと再交渉すべきです。

アメリカと再交渉を

沖縄では、9月に統一地方選挙、11月に県知事選挙があります。とりわけ、埋め立ての許認可権を持つ知事選挙で県民の意思を受け継ぐ知事が誕生すれば、移設は事実上不可能になります。

政府は8月31日、普天間飛行場の移設先として名護市辺野古周辺に造る代替施設の配置や工法をめぐる日米専門家協議の報告書を公表しました。沖縄県民は依然として辺野古移設に猛反対しています。沖縄県知事、名護市長、宜野湾市長も「政府が勝手にすすめて認めるというやり方はおかしい」「県民の合意を得ないものは実現しない」と反対の態度を硬化しています。



沖縄県民は辺野古移設に猛反対

参議院選挙で、管内閣は消費税問題とともに普天間基地問題でも国民の厳しい審判をうけました。沖縄県議会は7月9日、辺野古移設の日米共同声明は、「民主主義を踏みこじる暴挙」とし、全会一致で抗議決議を採択しました。普天間基地の即時撤去は沖縄県民の総意です。